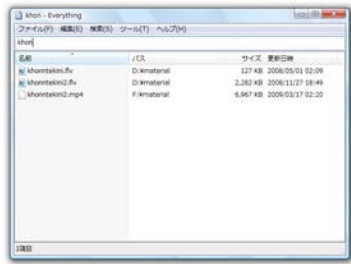


超シンプルで超高速なファイル検索ソフト！「Everything」。

Everything



スクリーンショット

制作者 [David Carpenter](#)

対応 2000/XP/Vista/7



● Everything

シンプルかつ高速なファイル検索ソフト。

ハードディスク内に存在するファイル/フォルダをデータベース化し、そのデータベースを元に超高速な

ファイル検索を行えるようにしてくれます。

データベースの自動アップデート、検索結果に含めないファイル&フォルダの設定、正規表現検索、検索

結果のエクスポート...等の機能が付いています。

「Everything」は、超高速なファイル検索ソフトです。

「[Google デスクトップ](#)」に代表されるファイルインデックス型^{※1}の検索ソフトで、とにかく高速にファイル/

フォルダを検索できることが最大の特徴。

※1 ハードディスク内のファイル/フォルダをデータベース化し、そのデータベースを元に検索を実行するタイプのソフト。

検索方式は「インクリメンタルサーチ」^{※2}、データベースは「自動アップデート方式」が採用されている

ため、手軽に、そして面倒な操作を一切必要とせずに使えるようになっています。

※2 キーワードを入力すると同時に、検索結果がリアルタイムに表示される...という検索方式。

さらに、インターフェースは「検索バーとファイルビューのみ」という超シンプルな構成になっているので、

使いやすさはかなりのものです^{※3}。

※3 シンプルだが、「and 検索」や「or 検索」、[ワイルドカード](#)、正規表現を利用した検索にも対応している。

「and 検索」は、キーワードを半角の空白で区切り、「or 検索」は、キーワードを | で区切る。

加えて、検索結果に含めないアイテムを指定する機能や、ドライブ&フォルダの右クリックメニューから

「Everything」を実行できるようにする機能^{※4}、検索結果をテキストファイルに書き出す機能等も備えています。

※4 右クリックで選択したフォルダ/ドライブをルート（第一階層）にした状態で、

「Everything」を

起動できるようにする。

基本的な使い方は以下の通り。

日本語化

1. 「Everything」をインストールすると、本体が自動で起動します。
最初に日本語化を行うので、タスクトレイアイコンを右クリック → 「Exit」を選択します。
2. 「[Everything.lng.exe](#)」をダウンロード&インストールします^{※5}。
※5 ポータブル版の「Everything」をダウンロードした場合は、「Everything.lng.zip」をダウンロード&[解凍](#)し、中に入っていた「Everything.lng」を「Everything」の実行

ファイルの
あるフォルダ内へと移動させる。

3. 「Everything」が自動で起動し、「Everything Options」という画面が表示されます。
この画面の上部にある「Language」欄で「日本語」を選択。
4. 下部の「OK」ボタンを押し、設定画面を閉じます。
5. すると、「Everything」が自動で再起動します。
6. これで、UI が日本語表示になっています。

実際に使う

7. 「Everything」が起動すると、ハードディスク内のファイル/フォルダのインデックス作業が自動で開始されます。
(進捗状況は、ステータスバー上で確認することができる)
このまま、インデックス作業が終了するまで待ちます。
8. インデックス作業が終了すると、ハードディスク内のファイル/フォルダがファイルビュー上にリスト表示されます。
さらに、ステータスバー上に

○ ○ ○ ○ 項目

というように、インデックスされたアイテムの数が表示されます。
これで、ファイル検索が可能になっています。

9. 操作は、画面上部にある検索バーに、目的とするファイルの名前（の一部）を入力するだけ。
キーワードを入力すると、該当の文字列を含むファイル/フォルダが、リアルタイムに絞込み表示されます。
10. ちなみに、リスト上のファイルは、エクスプローラ上で操作するのと同じように操作することができます。
たとえば、ダブルクリックすれば関連付けプログラムで開くことができ、右クリックすれば通常のコンテキストメニューが表示される... といった具合です※6。
※6 右クリックメニューから、選択したファイルの格納先フォルダを開いたり、ファイルのパスをコピーしたりすることもできる
(ファイルの格納先フォルダを開く時は、「パスを開く」を選択する)
ついでに、ファイルを他のアプリケーションへドラッグ&ドロップしたり、他のアプリケーションからドラッグ&ドロップしたりすることも可能。
また、ファイルビュー上のアイテムは、

- 名前
- パス
- サイズ
- 最終更新日時

といった項目ごとに、ソート（並び替え）することもできるようになっています※7。

※7 各カラムをクリックすればよい。

カラム上で右クリックすることで、カラムに表示させる項目を設定できたりもする。

11. 検索結果のファイル一覧は、テキストファイルに書き出すこともできます。
ファイルリストをテキストに書き出す場合、メニューバー上の「ファイル」→「エクスポート」から
ファイルの出力を行います。

除外フォルダ/除外ファイルの登録

指定したフォルダ/ファイル を、検索結果から除外する

1. メニューバー上の「ツール」から「オプション」を開きます。
2. 「除外」タブを開きます。
3. 検索結果から除外したいフォルダがある場合は「フォルダ追加」ボタンを、検索結果から除外したいファイルがある場合は「ファイル追加」ボタンをクリック。
除外するファイル/フォルダをキーワードで指定したい場合は、「フィルタ追加」ボタンをクリック※8。
※8 特定の文字列を（名前に）含むファイル/フォルダを、一括してフィルタしたい時

に。

4. 各種設定画面が表示されます。
ここで、検索結果から除外したいフォルダ or ファイル を指定します。
「[フォルダの追加](#)」画面上では、サブフォルダも除外するのかどうかを設定することができます。
「[フィルターの追加](#)」画面上では、ルールをファイル / フォルダ のどちらに適用させるのかを設定できるようになっています。
(ファイル / フォルダ の両方に適用させることも可能)
5. 検索結果から除外したいアイテムが他にもある場合は、同じ手順で登録処理を行います。
ルールを間違えて登録してしまった場合は、リスト上で該当のものを右クリック → 「削除」を選択。
6. 隠しファイルやシステムファイルを非表示にしたい場合は、「隠しファイルとフォルダを除外する」や
「システムファイルとフォルダを除外する」にチェックを入れておきます。
7. 画面下部にある「OK」ボタンを押し、設定画面を閉じます。
8. データベースの再構築が実行され、除外設定が有効になっています。

尚、検索時には、必要に応じて

- 大文字 / 小文字 の一致
- 単語の完全一致
- パスの一致
- 正規表現を使用

といったオプションを指定することもできるようになっています。
(メニューバー上の「検索」から)

その他、キーワードと一致する部分を太字にする機能や^{※9}、フォルダ&ドライブの右クリックメニューから

直接「Everything」を実行できるようにする機能¹⁰なども付いています。

※9 「ツール」 → 「オプション」 → 「表示」を開き、「検索結果を強調する」にチェック。

※10 「ツール」 → 「オプション」 → 「コンテキストメニューに追加する」にチェック。